

子ども達は誇り高く生きようとしている

第25回北海道子ども本のつどいを見てきました

児童文学者

後藤竜二さんの

講演

夏空のすっきり晴れた良い天気。ちよつと道を間違えて遠回りしてようやく玄関にたどり着くと手に手にスリッパや上履きを持った、主にといふが大半年女性が、どんだん吸い込まれて行き、なんだか参観日のよう、ちよつと緊張。

会場の体育館へ入ると…ピツクリ！体育館にこさが敷かれ、とこどこにかわいい座布団が置かれていて、既にたくさんの方が、片手に団扇や扇子を持ってニコニコ待っています。私が普段通いなれた講演会や研修会とは会場の雰囲気全然違い、「子ども本のつどい」の横断幕が手作り、見ているとついニコニコしてしまいました。

講演が始まると、後藤さんのお話は、普段の生活の話題を織り交ぜ、自然な話し言葉の中から、ぼんぼんと大切な

ことが飛び出てきます。「ことばが語り合うものではなく、自分を主張するものになってしまっている。『自分が強い』を証明する、ナイフのようなものになっている」「家庭のことは大切に。子ども達自身が誇り高く生きようと思っていることを忘れてはいけない。一緒に生きていく仲間であり、年齢で考えてはいけません。」「親も教師も『教えてやっている・養ってやっている』という姿勢では、例えばそれがどんなに正義でも対話の拒否にしかない。」「等々。

「ことば」の持つ力が体の中に水のようにしみ込んでいくようでした。

最後に「ことばは長い時間を短くしてくれる。短い時間を豊かに長くしてくれる。」

帰り際、表の涼しい風に吹かれて何度も反芻してみました。(K)



中央が後藤竜二さん（分科会にて）

7/28 ~ 7/29

分科会

翌29日は参加者が9つの分科会に分かれました。ある会で大人も児童文学を読んでみよう。新しい世界・懐かしい世界が広がります。子どもの心が分かるから。との意見に非常に共感を覚えました。そして、一番元気だったのは廊下でパネルシアターを見ていた子ども達。これなら教室内のお母さん達も安心して研修できたに違いありません。単なる託児に終わらない心配り、我々協議会でも参考にしたいものです。全道から集まった参加者・スタッフのみなさんお疲れ様でした。

5月18日(土)コミュニティーセンターで14年度の総会を行いました。13年度の反省と14年度の事業計画を話し合ったところ、参加した役員からは「フォーラムの報告書をもっと早く作って欲しい。」「前年度の踏襲に留まらず、もっと会員同士の交流が図られるように努め、協議会を発展させて欲しい。」などの意見が出されました。異分野の団体が集まる協議会ですから、これまでに以上に各団体が参加



総会が終わりました

世界中の絵本が江別にやって来る!



第2回生涯学習フェスティバルは、昨年度に引き続き「こころの時代を問う」をメインテーマとし、特に子どもたちのこころの成長について考えます。4人の専門家によるリレー講演とまとめのシンポジウムのセットに加え、今年は「国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト受賞図書展」を同時開催します。詳しくは24号でお知らせします。

生きることと学ぶこと

いくつになってもはじめの一歩



福見 章さん

楽しく・輝く

人生最大の節目である50歳を過ぎたある日、中年太りと糖尿病を心配した娘が大麻卓球クラブに私のことを頼み、入会させてくださいました。ママさんばかりの中「黒一点」と言われながら、ラケットの握り方から指導され週1〜2回ほど練習しました。4年ほど経ち、図々しくも全道大会に出ました。もちろん1回戦で敗退。その後もしばらくは1回戦ボーイでした。しかし、敗戦を糧にビデオでの研究や分析をしながら練習を重ね、ついに61歳の時に年代別全道チャンピオンになりました。70歳代でも

チャンピオンになり、現在までに6回優勝しています。

そんな私も数年前事情があって数ヶ月運動ができない期間に顔がむくんで病人顔になりました。糖尿病の薬を飲んで

いる私にとって運動療法は欠かせない日課です。それ以来店員に任せて週3〜4回は卓球に励んでいます。私共の年代(74歳)では、どこか身体

の具合の悪いところが出て来るに決まっています。でも、ちよつとぐらいい異常があっても楽しい時間を持つことが大切なことです。運動も楽しければ長続きしますし、何歳になっても工夫次第ではいくらかでも向上します。現在は次の目標75歳以上の全国制覇を目指して、計画を立て一生懸命努力を続けているところですよ。



後藤美枝子さん

街角に歌声を

現役の仕事を持って、楽しい卓球もできて、今は「最高に輝ける日々」を送らせて貰っており、周りの皆さんに心から感謝をしています。
(大麻中町在住)

人生何事もチャレンジ。私は生涯学習の一環でもある「ふるさと江別塾」に参加し、市内各大学の講義を受けています。中でも浅井学園大学の岡元眞理子先生の「街角にもつと歌声を響かせましょう。」とお話に共感し、これを実現する為に自分には何ができるのかを考え、「町内にコーラスサークルを創ろう。」と思い立ったのです。ちょうど

杜の台記念会館の利用者が少ないと聞いていた時でした。最初は自治会の婦人部長さんにご相談し、それから町内会役員の方々にもご相談しました。まず会館の建築がピアノの重さに耐えられるかを聞き、「大丈夫。」ということでしたので、次に指揮者・伴奏者探しをしました。快くボランティアで引き受けてくださった方を見つけたのは幸いでした。会員の募集、ポスター作り、名簿作りなどは手分けして行い、多くの方々に支えられながら、平成13年11月「コーラス杜の台」が生まれました。現在は35名の仲間とともに月2回のレッスンをを行い、童謡や学生時代に習った日本の歌を歌っています。「少し体の調子が悪くても、皆と顔を合わせて歌うと元気になるの。」「この歳になって初めてコーラスをしたわ。」等の声を聞くと嬉しくなります。80歳を越えた方も楽しく元気に参加しています。

いくつになってもはじめの一歩、みんなで「よちよち」ながら歩き始めたところですよ。このサークル誕生に力を



野嵜 昇さん

あと1年での再出発

人生80年代と言われているが、私は人生の7合目を少し過ぎた59歳の時に、かつてない大きな転機を迎えました。38年間勤めた銀行が定年まであと1年という時に破綻したのです。「まさか自分がこんな目に会うとは...」

人生には3つの坂、「上り坂」「下り坂」そして「まさかの坂」があると云います。破綻の日からの3年間は正にまさかの坂の真っ只中であつたような気がします。破綻から始まった第2の人生、先ずは「資格取得」と考え専門学校に通うことを決意しました。60歳からの手習いが約1年半続き、なんとか「宅建簿

物取引主任者」と「ファイナンシャルプランナー」の資格を取得することができました。その結果、これまでに道内109市町村の「高齢者学級」「消費者協会」「市民講座」、あるいはお寺の「檀家の研修会」などで講演をさせていただきました。

テーマとしては、平均余命が伸びて、死ぬ心配よりも長生きすることによる心配の方が多い時代をいかに生きるかといったことに焦点を絞った「長生きの課題」、必要以上の保険に入っていないかについて考える「保険の掛け過ぎはないですか?」、そして、高負担・低収入による生活資金の目減り対策の「賢い資産の運用」などです。1時間半の講演ではいろいろなお事例とユーモアを交えて話すようにしています。

今は自己研鑽の毎日ですが、銀行員時代にはなかった緊張感が生きがいとなっております。

(文京台在住)

「ほっとワールドのっぽ」

まちづくり まち育て

野幌町55
381 - 2320

「ほっとワールドのっぽ」は、行って来ました。野幌商店街の一角にあった以前の「ギヤラインNOPPO」です。名前は聞いたことあったけど行くのは初めて。今回は私と同じ生涯学習推進協議会理事の小西さん(野幌商店街組合理事)から、「のっぽが新しくなったから見においで」とお誘いを受け、色々とお話を聞いて来ました。

「自分達の暮らすのっぽのまちに、どんな人がいて、何があって、ここで何が出来るのかを子どもたちに分かってもらいたい。企画に関しては決して背伸びしないでこのまちの人材や資源を活用して、アイデアを出していきます。」まだ若いのにしっかりと考え方です。大いに期待していますよ。活動時間…毎週土曜日10時~12時

縁側サミット

三重県で生れた縁側サミット。のっぽではこの家にもありそうな、タンスに眠るいらなくなった和服や帯をほどこいて、ミニ着物や和小物を作っています。「もう着なくなったから」と着物を持ってくる人がいたら、リフォームした作品を一つプレゼントしてくれるそうです。



縁側サミット

会食会

上から読んで下から読むでも「会食会」(そんなことはどうでもいい)では、近所のお年寄りにお食事を作ってもらって食べてもらっています。「のっぽのまちにも高齢化の波が押し寄せています。独居のお年寄りが多くなりました。みなさん寂しかったりするんだろうなと思って、毎週火曜日にお茶会に遊びに来てもらってたんです。それが発展して週1回「会食会」を開いて、栄養バランスを考えた手作りの料理を食べていただいています。みんなで食べるのいいでしょ。」そうですよね。

「ところで参加料は材料費程度でいいということですが、それとで間に合うんですか?」「あくまでもボランティア。時にはみんなで食材を持ち寄っています。」本当に頭が下がります。人に優しいHOTな味わい満喫してみてください! 活動日…毎週火曜日



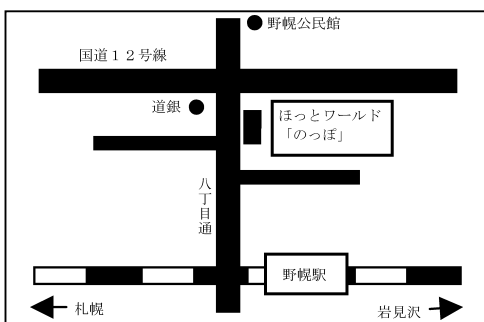
サタデーのっぽ

土曜日も休みになった子どもたちに、のっぽで色々な体験をさせてあげようというのがサタデーのっぽ。カーネーション作り、バター・チーズづくりなどの体験教室に毎回30人近くの小学生が参加しています。企画運営しているのは「まちづくりグループACE」の人達です。ACEはまちづくりに関心のある人達の集まりで、お話を聞いたのは情報大の学生、林さんでした。



サタデーのっぽでバター&チーズづくり

実際の作業風景を見ていたら、みなさんワイワイおしゃべりしながら「とても楽しそう!」って思いました。案外、こうした人間関係を作るのが本当の目的なのかもしれませんね。ちょっと覗いてみませんか? 活動時間…毎週月・水曜日10時~12時/13時~15時



「ほっと」して、まちづくりへの情熱は「HOT」。野幌のまちづくりといえ、駅の高架化がいしか頭になかったけど、そうしたカタチづくりよりも温かいキモチづくりの方が今必要なことだっけと分りました。小西さんお誘いありがとうございます。(点字さくの会 藤)

ほっとワールド

情報がたくさん 野幌商店街のホームページ
<http://www.nopporosyoutengai.com>

シンポジウム

「心のコミュニケーション」

2002.10.19



最近の青少年の心をめぐる
様々な問題は本当に根が深く
難しい問題だと思えます。
「このままでは日本の将来が
危ない！」と不安になってし
まいます。そして、こうした
問題は根本的には親子のコミ
ュニケーション不足が原因で
はないでしょうか。

そこで、我々江別青年会議
所では江別市民のみなさんと
この「コミュニケーション」
について一緒に考えてみたい
と思います。

10月19日(土)午後1時30分
から午後4時まで、江別市民
会館小ホールで「心のコミュニ
ケーション 育てあうこ
と、学びあうこと」と題し
てシンポジウムを行います。
第二大麻幼稚園園長の安
藤陽子さんに家庭内教育やコ
ミュニケーションについて基
調講演をしていただき、その
後安藤園長に、豊島眞さん
(札幌カウンスリングセンタ
ー所長)、河野和枝さん(さ
っぽろ子育てネットワーク事
務局長)、大江祐司(社)江別
青年会議所理事長)の3名を
加えた4名でパネルディスカ
ッションを行い、この問題を
掘り下げていきます。非常に
楽しみなメンバーが揃いまし
た。

マイ・ブーム

「描くこと」



大江 祐司さん

最近 又、絵を描きはじめま
した。私は小さい頃から絵を描
くのが好きで、絵画教室にも通
っており、小学生の時には全道
のコンクールで賞をいただいた
こともありました。もちろん夢
は画家になることでした。中学
生までは日常的に絵を描いてお
りましたし、それなりに自信も
あったのですが、札幌の高校に
進むとそんな自信は一挙に吹き
飛んでしまいました。自分より
上手な人はたくさんありました
し、特に美術部に在籍して美大
を目指している人なんかとは歴
然たる才能、技術の差を感じま
した。だからというわけではな
いのですが、もともと進学をめ
ざしておりましたので、普通の
大学にいき就職し結婚し子供
が出来てという芸術家とは程遠
い普通の人生を歩んでまいりま
した。ただ、絵は好きで時折、
筆を執ったり、美術館に足を運
んだりしておりましたが子供
が出来、ここ5・6年は全く絵
画とは疎遠になっておりました。
最近になり長男が水彩絵具を
使うようになり、又私が絵を描
いていても邪魔をしなくなった
こともあり、暇を見つけ描くよ
うになりました。本当は屋外で
美しい山々や風景を描くと気持
ちがよいのですが、私は主
に写真雑誌などで異国の街や風
景を好んで描いております(最
近は南米が多いです)。絵は描い
て行くうちに自分が思いもよら
ない仕上がりになってくるのが
面白いのですが、デッサンは本
当に難しいです。特に私は人間が
一番苦手です。基礎が出来てい
ないなと自戒するこの頃であり
ます。時間に余裕が出来れば是非
また絵画教室で勉強したいと
考えております。(青年会議所)

お申込み・お問合せは(社)江
別青年会議所事務局 ☎38
3 9678・☎383 9
683まで。たくさんの方の
ご参加をお待ちしています。



協議会HP完成

会員の皆さん、もう見てい
ただけましたか？私たち協議
会のインターネットホームペ
ージが稼動しています。
トップページはガイドブッ
ク7にも使われたイラスト
(左上写真)がお出迎え。あ
らゆる世代の人に生涯学習に
励んで欲しいという気持ちを
表しています。そこから、各
種イベントや会員団体の紹介
へとつながっていきます。
しかし、残念なことにまだ
まだ内容が不十分です。もっ
ともっと情報を
寄せてくださ
い。特に団体紹
介をまだ未提出
の会員はお早め
に。もちろん掲
載は無料です。
『ら・ら・ら』

編集後記

昭和44年に大麻に来てす
ぐ、スポーツ少年団や青年
育成会などに染まり、スポー
ツクラブの結成など、長い間
いろいろな活動に関わりを持
ってきました。そして、妻が
脳出血で倒れて身体障害者に
なつてから17年、毎日の時間
が少し足りないと思うことも
しばしばです。しかし、1日
24時間「天が全ての人に平等
に与えた唯一の時間」、私た
ちはその時間を何に使うかで
しょう？「時間は一人ひとり
の心の中にある。」「先手を取
れば必要な時間は幾らでもあ
る。」「と思っています。みん
なで地域のために汗を流した
いものです。(佐土)

ふるさと江別塾

今年で3年目を迎える市民大
学「ふるさと江別塾」が9月28
日(土)から始まります。統一テ
ーマを「環境・ふるさとの明日
のために」とし、環境ホルモン、
リサイクルなど色々な角度から、
各大学の多彩な講師陣が講
義を展開します。受講無料。

お申込みは市教委生涯学習課、
☎381-1062へ。

9月28日(土) 札幌学院大学
10月5日(土) 浅井学園大学
10月12日(土) 情報大学
10月19日(土) 酪農学園大学
時間はいずれも午後1時半～
5時まで。